

## 令和2年度第1回浅口市総合教育会議議事録

1. 招集日時 令和2年6月19日(金)
2. 場 所 中央公民館 1階 第3会議室
3. 開 会 午後3時30分
4. 閉 会 午後4時30分
5. 出席者 市長 栗山康彦 教育長 中野留美  
教育委員 佐藤賢次 教育委員 藤澤弘幸  
教育委員 高戸 崇 教育委員 吉田英子

### 6. 説明のために出席した者の氏名

教育次長	小山朋子	教育総務課長	藤澤智広
学校教育課長	小野力矢	こども未来課長	笠原清美
文化振興課長	安原直子	生涯学習課長	瀬良昌弘
教育総務課	山崎友紀(事務局)		

### 7. 議事の概要

教育次長 令和2年第1回浅口市総合教育会議の開会を宣する。

次第2 市長挨拶について

市 長 令和2年度第1回総合教育会議にお集まりいただきありがとうございます。新型コロナウイルス感染予防のための移動制限が解除されたが、その後クラスターが発生した事例等あり、依然として子どもたちの命を守らなければならない状況は続いている。ただその中でも子どもたちの学びについて考えていかないといけない。本日も忌憚のないご意見をお聞かせください。

教育次長 次第3 協議題について

浅口市総合教育会議運営要綱第3条の規定により、市長に議事進行を求める。

市 長 浅口市総合教育会議運営要綱に基づき、議事進行を行う。

協議題 学びの保障について

事務局に説明を求める。

学校教育課長 資料に基づき、「児童生徒の学びの保障～新たな学びのスタイルへ～」 1. コロナ対応による学びの現状と課題、2. オンライン学習に向けての加速化、3. ICT 機器を活用した新たな学びのスタイルへ、4. 新たな授業スタイルの構築、5. 今後の課題について、説明を行う。

今年度から小学校が、次年度からは中学校が新学習指導要領の全面実施を迎える。5月20日まで新型コロナウイルス感染症対策のために臨時休業措置を取らざるを得ない状況となったが、その状

況下でも学校では試行錯誤しながら児童生徒の学びを止めない取組を進めてきた。また5月21日から学校教育活動を再開したものの、新型コロナウイルス感染症と共に生きていかなければならないという認識のもと、学校では「新しい生活様式」に基づき児童生徒の確かな「学びの保障」を進めていくことが求められている。

### 1. コロナ対応による学びの現状と課題について

休業期間中、学校では学年に応じた学習プリントを作り、復習や4月からは新しい学習内容提示の為の取組を中心に行ってきた。家庭学習等で活用できる県や文科省のHPの紹介を行い、子どもによってはサイトを活用した自主学習にも取り組んだということ把握している。

また登校日の機会をとらえ、学習の取り組み状況の確認や次の学習課題に取り組む上での説明を行うなどし、学びを止めない工夫をしてきた。

しかし、臨時休業に伴う家庭学習期間が長くなるにつれ、課題も見えてきた。①生活習慣・学習習慣の乱れ、②学習の定着度の差、③学習が苦手な子どもにとっては分からないことがそのままになってしまい学習に対する意欲の低下など。

そのような課題の中、学校は新しい生活様式に基づく児童生徒の確かな「学びの保障」を求められている。新学習指導要領の全面实施に向けても進んでおり、何ができるようになるかを意識した上で、何を学ぶか、指導すべき内容を考え、明確化し、様々な環境の変化をとらえて、どのように学ぶかを柔軟に見直すことも求められている。

### 2. オンライン学習に向けての加速化について

コロナ対応については、全国各地で「学びを止めない」工夫が進められている。その中ではメディア等でも取り上げられているようにオンラインを活用した学習等への取り組みがある。

文科省からも学習の保障の為に活用できるものはしっかり活用して、子どもたちの学びを止めない工夫をするように示されている。浅口市においても、今後コロナの第2波・第3波に備えて学習教材ソフトのモニター利用のための準備、アカウントの取得等を進めている。

### 3. ICTを活用した新たな学びのスタイルについて

浅口市では、令和2年度から3カ年の計画であった1人1台端末と高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備する「GIGAスクール構想」を大幅に加速化させ、今年度中の整備に向け事業を進めている。

「浅口市GIGAスクール構想」として、①全児童生徒に1台ずつの

端末整備、授業支援ソフトや管理サポート、協働学習や個別学習ツール等の準備、②児童生徒が同時に動画の視聴が可能となるように全通常教室と特別教室の一部へ高速 LAN 環境整備、③緊急時における家庭でのオンライン学習環境整備（モバイルルーターの貸し出しや、WEB カメラ・マイク整備）等整備を進める。また、以前から先進的に整備を進めてきた電子黒板も引き続き配備を行う。ICT 支援員についても、現在各校に年間 15 回、学校において支援できるように予算措置している。

#### 4. 新たな授業スタイルの構築について

1 人 1 台の端末環境になれば、教師はこれまでの授業観を転換する必要がある。これまでの教育実践の蓄積×ICT 機器を効果的に活用することにより、学習活動の一層の充実が図られ、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善が望まれる。単なる知識や技能の習得だけではなく、教師や友達等他者との相互関係の中で、多様な意見に触れ、社会の生き方を初め多くのことを学んで成長する学びとなることを考えている。また調べ学習や表現活動、あるいは離れた地域の児童生徒とつながることで多様な考えに触れる遠隔教育、情報教育といった学習の充実も期待されている。また一人一台端末を使うことになれば、それぞれの子どもたちに最適なものを学びに使うことも考えられる。現在学校現場においては、デジタル教科書等の活用も進んでいるが、ICT 機器を活用すれば子ども達の特性に合わせた学び、例えば様々な特性や障害がある子ども達に応じた学び方も可能となる。また家庭環境・生活環境の違いに応じた学び方、理解度に応じた学び方、そして現在不登校等問題になっているがそういった子ども達にも状況に応じた学び方を提供することもできると考える。また ICT の機能を使用することで、各教科・学習を横断的な学習へと展開することもでき、知識の習得、問題解決に対する能力を身につけ、より創造性をはぐくむ教育につなげることができるといったことも考えている。また、端末の整備に合わせて校内の高速 LAN 整備についても進めている。このことにより ICT 機器の活用がより進んでいくものと考えられる。

その為には、教師一人一人がどの学習活動で活用すると子ども達の学びに効果的かを考えていく必要がある。まずステージ 1 として、教師が使う場面を知ることからスタートし、次のステージ 2 で ICT 機器を使用した学び方を教師が決める、ステージ 3 として授業観の転換を図り児童生徒と共に学び方を決めていく「令和のスタンダード授業」へ。

そのような ICT 機器の活用のためには、教師の指導力向上は欠か

せない。県総合教育センターの研修や情報教育の担当者会の計画的な開催、メーカー等の研修の活用を進めていく必要がある。教師が実際に機器に触れ、その良さを感じ、授業観を転換する意識を持つことが大切になる。そして、授業で使える、使いたいという気持ちを持ち、活かせる場面を考えていくことにつながると考える。

#### 5. 今後の課題について

今後の課題として①教師の意識改革、②ICT 活用力向上に向けた人材活用や研修の確保、③学びを止めないための準備（ソフトの利用、アカウントの取得等）、④ネットモラル研修、⑤セキュリティの問題等がある。

市長 ただ今説明のありました協議題に関しまして、ご意見・ご質問等ありますか。

高戸委員 これまでの教育実践の蓄積に ICT が掛け合わされるということで、今までできなかったことが倍以上できるという、非常に未来があつていいと思う。ただ、億単位のお金がかかるということも分かった。

その中で ICT 機器の活用が得意な先生、不得意な先生というと思うがそれで子どもたちに差が出てはいけないと思う。教育というのは平等であるということに基づけば、それを使う先生のスキルが一定程度は求められると思う。

市長 教える側の教育については、執行部も考えているところである。ご指摘ありがとうございます。

吉田委員 6月3日山陽新聞に浅口市小中学校オンライン授業準備のことが載っていたが、浅口市は多難な中まずは一步を踏み出しており、良かったと思っている。うまくいかない事もあると思うが、やりながら課題解決を図ってほしい。金光学園も4月にオンライン授業を導入した際いろいろあつたそうだが、数か月してスムーズに行きだしたという話を聞いたことがある。

ただ、先生方は新しい事が今でもいっぱいな上に新たな ICT 機器の活用では大変だと思う。ICT 支援員を雇い、担任の先生と IT を組む等すれば、担任もやってみようと思う気持ちが出てくると思うし、前進するのではないかと思う。

市長 浅口市は ICT 機器の導入に早くから取り組み、どこよりも早くタブレット教育に取り組んできた。その際に、現場にはいろいろな苦労があつたと思う。また今回のコロナ禍でいっぺんにオンライン授業等の機運が高まった。失敗も多くあると思うが皆さんのご協力をいただきながら、市長としては財政的な支援をしっかりと行っていきたい。

佐藤委員 浅口市はもともとあった GIGA スクール構想を3か年計画から急遽1年に縮めて行うということなので、学校現場、特に先生方の戸惑いも大きいと思う。この構想は、ハード面とソフト面の両方がそろわないと実現できないと思う。ハード面は国からの予算も活用しつつ、市長さんへは必要な予算組みについて期待させていたが、ソフト面で、いろいろな課題も先ほどあげられていたが年度中に全てをクリアするのは難しいと思っている。優先的なものから取り組み、一つ一つ課題を解決しながら、また学校現場のことも意識しながら GIGA スクール構想を実現していただいたい。

市長 最初は3年計画だったものを1年で行うということで、全国の学校が課題に直面しており、先生方もプレッシャーを感じていることと思う。同じく子ども達も初めての体験であることから少し心配をしている。しかし、タブレットを入れていない自治体もある中で浅口市は先進的に5年前からタブレットを導入している。少しは功を奏したかなと思う。

藤澤委員 新型コロナが流行する中、急激に ICT 機器の必要性が上がったと思う。先生の得意・不得意はやはりあると思うのでフォローが大切だと考える。そういった意味で ICT 支援員の雇用などは必要な施策だと思う。浅口市は機器等の整備については他と比べ充実していると思う。難しい問題だが、今後家庭学習における通信料の経費負担の問題など、環境整備をする上で考えていかなければならないと思う。先生の意識改革については、実際に ICT 機器を使用しなければならない環境にならないと実感はわからないこともあると思う。コロナ禍で家にいなければならない状況の中、とても前向きに良く言えば貴重な体験をしたと思う。

市長 日本のタブレット教育は世界に比べて遅れていると言われている。ICT 機器の活用については、60 歳近い先生にも頑張ってもらわないといけない。子どもの学ぶ機会の平等のために県教委も市も考えていく。また、通信料について話が出たが、家庭教育用のモバイルルーターは必要に応じて貸し出せばいいと考えているが、その通信料の負担については全国の自治体も頭を悩ませている。毎月数千円かかる通信料をどこまでのご家庭に払うのか。この問題を解決せずにスタートはできないが、ただこれで学びの歩みを止めるわけにはいかない。

教育長 先ほどの課題の中で教員の意識改革があったと思うが、その件に関して市長からも教員への研修をどう行っていくか課題提示されているところである。その件で早速先日県教育次長、義務教育課長、事務所長とでオンライン会議を行う機会があり、通常なら必

要な会議場所へ行く時間と場所の制約がなく、まず私自身がオンラインの良さを痛感したところであるが、その会議の中で県からも研修を計画的にやっていくという話をいただいている。

また県立高校もオンラインを活用しようとしている所であるが、県もまさに今やりながら考えている状況であり、今はそういう状況だと思う。触らないと分からない事もあるし、次の研修ができないと思う。

また先日校長会があり、担当から校長へ説明したが、校長もとても興味を持って、やらないといけないという覚悟も持っていると感じた。走りながらでも一緒に頑張っていきたいと思っている。国の方でも GIGA スクールサポーターということで予算付けがあるが、地方には結局適切な人がいない。そういった状況をどう解消するかということで、国が人材を紹介してくれるということだが、県からも紹介をしてほしいとお願いをした。その際企業の方の副業という形で情報を少しいただいたが、県も今探している状況である。また支援員についても機器に強い方、支援に強い方等いろいろあると思うので、研究していきたいと思っている。

佐藤委員 工業高校辺りは10年以上前からそういった人材確保をしており、主にはSEにあたっていると聞いた。会社やメーカーなどからSEを紹介してもらっているとか。一つの方法として紹介する。

市長 現在のタブレット教育の支援員として、市単独費でベネッセから来てもらっているが、現在でも高額だと思う。ただ、今後全国でそういった人材の奪い合いになるので、ますます単価が上がるのではと思っている。我々が先駆けてタブレット教育をやってきたが、その際でもすでに支援員確保が難しい状況にあった。今後も困難が予想される。また5年前にタブレットを導入した際に、支援員については数年後には扱いにも慣れる為予算はもう不要か検討したが、毎年いろいろな事があり、欠かすことができないと現在も予算付けをしている。

教育次長 支援員については国も補助をするとあったと思う。

市長 補助の金がついても、なかなか人材がいない。

高戸委員 退職された方等をあたってみてはどうか。意外といらっしゃるのでは。

市長 英語教育でやろうとしたが難しかった。何か新しいことをやろうと思っても人材がいないのは大きな課題である。

しかし、人材確保はしないとGIGAスクール構想が成り立たないので、精一杯努力はする。人材確保の他に課題はあるか。

教育次長 一般質問の中で、家庭の金銭的負担と、小さな子どもについては親がそばについて教えてあげないといけないことに対して負担が

- 生じるのではと質問があった。そこも課題だと考える。
- 佐藤委員  
教育次長 タブレットといったハードそのものの入手についてはどうか。  
おそらく国が動いていて、企業に増産体制を働きかけているのではないかと思っている。
- 市 長 私が一つ危惧しているのは、一人一台の端末を購入したら買い替えもいっぺんに必要になると思う。その際は国から補助をつけてもらわないと莫大な費用になる。  
普通のパソコンでも10年はもたないのでは。
- 教育総務課長 本体を動かすと、だんだん古くなるとスペック機能が落ちてくるが、クラウド上の機能を使用すれば通常よりは長く持たせられると思う。ただバッテリーの持ちを考えると5年程度かと思う。
- 教育次長  
佐藤委員  
教育総務課長 バッテリーを直すよりは、買い替えたほうが安価な場合もある。  
国の補助金は、買い取りが対象か、リースも可能か。  
最初は買い取りでという話であった。今リースでもどうかという話が出てきている。
- 市 長 機器は高いが始めないといけない。浅口市は電子黒板などの整備も進めてきたが。
- 教育次長 電子黒板は画期的だと考える。デジタル教科書と合わせての効果も期待している。
- 市 長 その他、何かお気づきの点はあるか。
- 吉田委員 小学校の通学路の途中にある車庫の屋根瓦が数枚落ちそうになっているところがある。その下を児童が通学路として通っている。本来は持ち主が何とかしなければならないものとは認識しているが、もし持ち主の経済状況が苦しい場合、市が撤去費用の半分を出すなどの補助をすることはできないだろうか。
- 市 長 崩れそうになっている空き家で、崩れた場合歩行者が危ないといった場合は市が倒したことはあるが、市としてはまず持ち主にお願いをするところからだと思う。空き家を倒すのは補助が出る場合もある。
- 教育次長 民地のことなので、お願いする事しかできないと思う。労力的に本人が難しいのであれば近所の力をお借りして補修するとか。
- 市 長 また後で、詳しい場所を教育次長に教えてほしい。  
私からその他として、マスク着用における熱中症対策として、冷感マスクを配布する。妊婦と0～2歳までの子どもがいる世帯と、3歳から中学生の子どもへ。100回洗っても抗菌作用が続く加工をしており接触冷感効果にこだわって作った。  
また、各家庭にコロナ禍における避難所への避難の仕方をまとめたものを配布する予定なので、ご確認いただきたい。
- 市 長 その他について、他に何かあるか。

構 成 員 特になし。

市 長 その他について、事務局から何かあるか。

教育次長 特になし。

市 長 令和2年度第1回浅口市総合教育会議の閉会を宣する。